保護者向け

スクールカウンセラーだより

R2.　5. 18

新見南中学校SC　石井智久

子どもの強さ

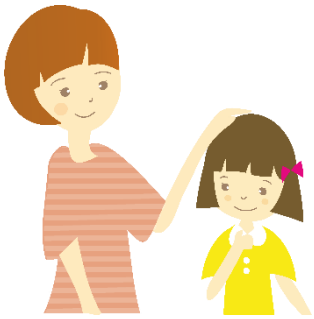
緊急事態宣言が一部解除され、これから少しずつ日常生活へ戻っていく希望が見え始めました。自粛要請中は多くの人が家族で過ごす時間が増え、いつもと違う生活の中でお互いにイライラしてしまった人もいるのではないかと思います。

大人はピリピリした社会の中で生活を維持するために働かなければならず、疲れて帰ってくるとゲームに熱中して、手伝いもせずグダグダに見える生活をしている子どもを見てイライラするという話も多く耳にしました。しかし、一方で子どもは大人にできない我慢をしている面もあるように感じます。

今後、コロナ感染拡大も含め大きな天災に遭遇してしまった時など、同じような状態になることが考えられます。そのような時、子どもの強さに目を向けることが大切になると思います。

子どもの立場から考えると、急に休校が言い渡されました。卒業を間近に控えた 3 年生は友達と突然別れさせられたことになります。新年度が始まり多くの学校で、楽しみにしている修学旅行や体育祭・文化祭は中止や延期になり、夏休みもとても短くなっています。国で決められている授業の時間数を確保するために1日に何時間も授業をする学校もあるようです。また、休校が突然解除され、登校を求められ、重い腰をあげて登校した子どもも多くいます。やっと気持ちを切り替えられたと思えば再び休校。そして学校再開と、大人でもこの生活は大変だと思います。しかし、子どもは文句を言いながらも問題をほとんど起こさずに過ごしています。ニュースで見かけるのは大人の問題行動がほとんどです。確かに、大人が望むような生活をしている子どもは少ないかもしれませんが、大人よりも「仕方ない」と現状を子どもなりに受け入れ、その中でできることをして過ごしているように感じます。

子どもらしく、子どもなりに頑張っていますが、大人はどうしても「勉強しない」「ゲームばっかり」「スマホをいじってばっかり」ということが目につきやすく、叱りがちになってしまいます。我慢できていないのは大人なのかもしれません。

大人と子どもは立場が違い、求められているものも当然違い、大人にも相当のストレスはかかっています。しかし、大人と子どもは違う土俵にいます。今回のようなことが今後起こらないことが一番ですが、万が一起こってしまった時、子どもの姿を見て、「子どもたちもなんとかやっているんだな」と思い、子どもの強さを認め、それを言葉で伝えて欲しいと思います。

それが子どもをさらに強くし、成長の助けになるかもしれません。